

委員名	意見概要
稲庭委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>ミュージアム（拠点）</u>」と「<u>まちなかミュージアム</u>」という形の中で、それぞれで取り扱う収蔵品や展示を考える必要がある。「ミュージアム（拠点）」と「まちなかミュージアム」が、共通のコンセプトで繋がっているデザインであることも重要。 ・「まちなかミュージアム」に地域の人が参画することを目指すのであれば、<u>行政側と市民をつなぐ人材が必要</u>。 ・収蔵品は残すべきと思われる要素があるから残されているのであって、<u>多くの人が「なぜこれを残していくのか」ということを考え、収蔵品の価値を考える必要性がある</u>。そのための時間と空間の確保が必要。
垣内委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「新たなミュージアムを作る理由」を行政として考える必要があり、そのためには「基本的な考え方」策定時に実施した<u>市民アンケート結果のニーズも踏まえる必要がある</u>。<u>拠点施設としての機能は、自治体としてしっかり整備すべき</u>。 ・「<u>まちなかミュージアム</u>」の他施設利用は、<u>現在様々な施設での連携で大きな効果が生まれているので、今後も重要と思う</u>。<u>各連携施設スタッフと協働していくことが大事</u>。 ・資料で挙げられている<u>他館の事例が果たして成功事例なのか、成果を検証してから本当に取り入れるべきなのか判断する必要がある</u>。
齋藤委員※ (公募市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>交流創出</u>」事業に特に力を入れていくべきだと思う。川崎市の過去や現在、未来について、ワークショップやイベントを通じて、市民とミュージアムが積極的に交流しながら考えることで、市民がミュージアムに関するイメージを持ちやすくなる。 ・施設の各機能の必要性について整理することも必要であるが、<u>各エリアのつながりについて整理することも必要</u>。 ・行政施設だけでなく、飲食店やコンビニなどのような「より市民生活に密着した場所」と連携していくことが必要と感じる。<u>普段の生活の中に「一味違うスパイス」が現れるだけで、市民がミュージアムのことを意識するフックになると考えられる</u>。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業展開については、拠点施設ありきでやるわけではなく、<u>「まちなかミュージアム」の積極的な活用を考えるべき</u>。 ・<u>施設を4つのエリア構成としているが、エリアごとに諸室を分けて考えてしまうと、諸室がどんどん増えていってしまうかもしれない</u>。エリアを跨いだ諸室構成を考えられれば、施設もコンパクトに考えることができる。 ・「<u>まちなかミュージアム</u>」は設置しただけでは形骸化していってしまう恐れもあるので注意が必要。
高野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>収集・保管、調査研究、展示</u>」こそ市民参画が必要な事業。これに市民が参画することにより、<u>市民が自分のミュージアムを作ることになる</u>。 ・施設整備は、機能別に考えるのはよいが、<u>「エリア」として整理するとどうしてもカテゴリ分けされることを危惧する</u>。ファブラボなど学校では体験できない特別な諸室機能は必要ではないか。 ・「<u>まちなかミュージアム</u>」を複数の場所で展開する場合には、<u>それぞれの活動地域で特色を出すようにするべき</u>。例えばいろんな場所でアートフェスのようなことをやるのは良いのでは。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちなかミュージアム」のサービスを続けるためには、「<u>ミュージアム（拠点）</u>」の場所によっては<u>アウトリーチが重要</u>。 ・<u>施設に捉われず、地域にマッチングする形でフレキシブルに事業を育てていくことも大切</u>。拠点施設は、「基本エリア」をベースとして、他の3つのエリアで行う事業は「まちなかミュージアム」で行っていくことも有りではないか。 ・現在話している内容は類例がないので、<u>現在の「拠点が喪失している状態でのミュージアム活動」の中で、新しいミュージアム像を開発していくことが重要</u>。
西川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>修復の市民参加は大切</u>。資料は調査研究の要素が薄いように見えるが、<u>ここも市民参加で特徴が出せるとよい</u>。（例えば「川崎らしさ」を市民提案型で調査研究してみるなど） ・<u>施設のエリア分けは市民にどう受け止められるか気になる</u>。「機能」という表現でもよいのではないか。 ・「<u>まちなかミュージアム</u>」は、「<u>集いの場</u>」「<u>つながる場</u>」として考えてみてはどうか。また、市域のスポットでデジタル技術で情報を得られるような仕組みを作り、いろんなスポットを市民が巡って楽しめるようにするなどできるのではないか。
保坂委員 (公募市民)	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>敷居の高さ</u>」をクリアすることを考えると、<u>若者向けの体感・体験型の展示は必要なのではないか</u>。 ・「<u>まちなかミュージアム</u>」は<u>各区の地域性を考慮し、様々な連携を考えていくべき</u>。 ・被災収蔵品修復展のように、<u>修復過程の映像を修復が完了したモノと対で観られるようにしておくとその大変さや凄さが伝わると思うので、積極的に取り組んでほしい</u>。
八木橋委員※	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>収集・保管、調査研究、展示</u>」を基盤としつつ4つの事業を行うという考え方はその通りだと思うので、<u>このとおり進めてほしい</u>。それぞれに具体的な取組が例示されているが、<u>一過性のものでなく、長期的に考えていくことが大切</u>。 ・施設をエリア分けするという考え方は運用上良いのではと考える。ただし、<u>エリアの機能が他のエリアと連動する形について考えていく必要がある</u>。 ・「<u>被災</u>」や「<u>修復</u>」については、<u>被災前後の比較を行うことが大切</u>。

※個別ヒアリングによる意見聴取

第3回懇談会における委員意見のまとめ

- ・「ミュージアム（拠点）」と「まちなかミュージアム」のそれぞれの取組内容や共通のコンセプトを整理する必要や、「まちなかミュージアム」の多様な展開（地域性を考慮した活動など）を考えていく必要がある。
- ・施設をエリア分けすると、諸室が必要以上に増えてしまうおそれやカテゴリ分けされてしまうおそれなどがある。「機能」としての連動を意識した諸室構成を考えられれば、施設をコンパクトにすることもできるのでは。
- ・市民に「自分がミュージアムに関わっている」と感じてもらうためには、「収集・保管、調査研究、展示」への市民参加が大切。「交流創出」により、市民とミュージアムが積極的に関わることも重要。
- ・修復した被災収蔵品の活用は、修復過程の発信や修復前後の比較を示していくことが大切。市民とともに、収蔵品の価値を考えていくことも必要。